

概 要

概 要

沿 草

幕政の頃我が大和國は郡山、高取、柳本、橿羅、芝村、小泉、柳生、田原本の八藩が分封管治し、和歌山、津、久居、大多喜、壬生の五藩の分邑、高取藩領所、奈良奉行所及百三十三ヶ所の代官所、旗本宮堂上、神社、寺院、社家等に分屬してゐた、明治元年五月、高取藩領所、奈良奉行所及百三十三ヶ所の代官所、旗本、宮堂上、神社、寺院、社家、管領等を奉還し同年五月奈良縣を置き之を合せ管轄し、同二年六月各藩版籍を奉還し、同三年二月奈良縣の一部を分つて五條縣を、同四年七月藩を廢して縣を置き、郡山縣、高取縣、柳本縣、橿羅縣、芝村縣、小泉縣、柳生縣、田原本縣となつたが、同年十一月各縣を廢して更に奈良縣を設け、大和全國を統轄するやうになつた、明治九年四月奈良縣を廢し堺縣に併合し更に明治十四年二月堺縣は大阪府に編入せられたため、大阪府に屬したが明治二十年十一月十日大阪府を割いて、再び奈良縣を置き、大和全國を管轄し以つて今日に至つてゐる、明治三十四年四月添上郡外十四郡を合併して十郡とし、同三十一年二月添上郡奈良町に市制施行、大正十二年郡制廢止、現在は一市十郡百五十ヶ町村を管轄してゐる。

土 地

位 置 本縣は畿内の東南部に位し一市十郡二十九町百二十一村を管轄してゐる、東は三重縣に境し西は大阪府に隣り南は和歌山縣に境し北は京都府に接し、東徑135度33分より起つて136度12分に至り北緯33度52分より34度47分に達してゐる。

地 勢 南北に長く東西に狭く山岳は四面を圍繞して北方纔に開通してゐるのみである、東は國見山、高見山、大臺ヶ原山、備後山等の群峰を隔て、三重、和歌山縣に境し南は峻嶺相重つて和歌山縣の諸嶮山嶽と交叉し、西は金剛、葛城、信貴、生駒の連山起伏して大阪府と境を劃してゐる。

山嶽及河川 山嶽の大なるものに七面山、佛經岳、彌山、釋迦ヶ岳、大臺ヶ原山、國見岳等があり、何れも南方に巍峨として屹立してゐる、河川は飛鳥、富雄、龍田、葛城其の他數多の小川が合流して大和川となり西流して大阪府に入り、宇陀川は源を宇陀郡に發し三重縣を経て名張川となり再び遙かに北部を匯りて京都府に赴き、吉野川はその源を大臺ヶ原に發し中央を貫流して紀ノ川となり南海に入り、又十津川、北山川は共に吉野郡の山間に發し和歌山縣を経て南海に注いでゐる。

面 積 本縣は東西64.13軒強南北102.22軒弱で、面積は3,688.6方軒である、之を郡市別に觀て最も大なるは吉野郡の2,262.7方軒で總面積の六割二厘を占め、宇陀、山邊、生駒、添上、磯城、北葛城、宇智、高市、南葛城の各郡順次之に亞ぎ奈良市の29.8方軒は最小である。

地 質 本縣の地質は錯雜混入してゐるが、之を大觀すれば南半は大部分古生層にして中生層は其の南端の一部を占め北半は火成岩より成つてゐる、地質には花崗岩、安山岩があり、水成岩層中には片麻岩の地が多く之に亞いで第三紀層が多く、其の他の地層は此等の間に介在して小面積を占むるのみである。

民業及産物 民業は農業を主とし山地に於ては林業を兼ね、又市街地には専ら商工業に従事し養蠶、製茶を業とするもの亦尠くない、物産の主なるものに米、賣藥、綿絲に紡績、杉用材、酒類、麥、金巾、繭、鈕、檜用材、メリヤス生地、蚊帳、靴下、シャツ及ズボン下、木炭、スイカ(西瓜)、蠶絲類、綾綿布、墨、蓄音機レコード、凍豆腐、屠肉(牛)、醬油、採肉(鶏)、モミ、シラベ、トウヒ用材等があり、生産總額は186,270.267圓で現住一人當の生産額は304圓08錢である。

氣 象

氣 壓 昭和十四年の平均氣壓は756.8耗で前年に比べて0.6耗高くその最高は十二月の763.1耗、最低は八月の751.2耗である。

氣 溫 昭和十四年中の平均氣溫は攝氏14.5度で平年より0.2度低く、年内を通じ氣溫の最高極は七月二十日の36.2度、最低極は二月十一日の零下5.6度である。

降 水 量 昭和十四年に於ける降水量は1,077.2耗で平年の1,433.0耗に比較すれば355.8耗少く、一ヶ月の平均降水量は97.5耗で降水量の最も多い月は十月の195.7耗、最小は十二月の5.5耗である。

戸 口

人口靜態

現住人口 警察戸口調査規程に依る昭和十四年末の戸口は戸數 123,056 戸人口 612,573 人内男 297,405 人 女315,168人で 女100人につき 男94.4人に該り一戸當の平均人員は4.98人である。前年末に比し人口431人を増し一方軒當の人口は166人となつてゐる。

現在人口 昭和十年國勢調査の結果に依る現在人口は620,471人で内 男306,011人 女314,460人 女100人につき 男97.3人で昭和五年國勢調査に比べて總數 8,329人内 男 10,645人を減じ 女2,316人を増加し、一方軒當人口は166人である。

一 方 軒 當 人 口

	國 勢 調 査		戸口調査=依ル		國 勢 調 査		戸口調査=依ル	
	現在人口	常住人口	現 住 人 口		現在人口	常住人口	現 住 人 口	
添上郡	208	209	201	北葛城郡	716	722	749	
生駒郡	410	441	444	南葛城郡	448	468	475	
山邊郡	284	231	214	宇智郡	283	284	281	
磯城郡	504	506	513	吉野郡	44	43	44	
宇陀郡	113	114	111	奈良市	1,878	1,871	1,818	
高市郡	556	575	582					

人口動態

婚 姻 昭和十四年の婚姻は5,026件で前年に比し338件少く、人口千に對する婚姻率は7.87

件である。

- 離 婚** 離婚は388件で前年に比し26件を増しその人口千に對する割合は0.61である。
- 出 生** 出生總數は13,884人内男7,110人女6,774人で女100人につき男105人に該り前年に比し730人(5分0厘)を増し人口千に對する出生率は21.74である。
- 死 産** 死産は總數863内男448女409男女不詳6で前年に比し56人(6分1厘)を減少し人口千に對する死産率は1.35にして前年に比し0.10減少してゐる。
- 死 亡** 死亡者は總數11,608人内男6,002人女5,606人で前年に比し171人増加し人口千に對する死亡率は18.17である。

自然増加 昭和十四年に於ける本縣人口の自然増加は2,276人内男1,108人女1,168人で人口千に對する増加率は3.56に上り、前年に比べて901人(2割8分4厘)少く、男女の割合は女100人につき男95人である。

生 産 總 額

昭和十四年に於ける生産總額は187,270,267圓で前年に比し33,745,947圓(1割7分6厘)を増してゐる。

本縣生産總額の趨勢は世界大戰當時174,598,746圓を算した大正八年を最高として年に依り高抵はあつたが、漸減の傾向を辿り昭和六年にはその半にも及ばない80,819,106圓となつた。昭和七年より次第に増加して最近は年と共にその額を加へ再び大正八年時代より突破するに至つた。

之を種類別に觀ると工業は依然として最も多く93,123,998圓で王座を占め、以下農産50,704,622圓、林産27,360,421圓、蠶絲業産8,104,502圓、畜産4,743,168圓、鑛産1,129,918圓水産1,103,638圓の順となつてゐる。

郡市別生産總額の最高は北葛城郡の31,387,572圓で最低は宇智郡の6,287,259圓である、生産總額を現住戸口に對比すれば一戸當1,514圓一人當304圓となり前年に比し前者265圓後者53圓を増してゐる。

最近十ヶ年間及郡市別の生産總額の割合は次の通である。

	總 數	農 産	蠶 絲 業	工 産	林 産	鑛 産	水 産	畜 産	同 指	上 數	現 住 一 人 當
	總 數										
昭和	年	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓
5	91,513,186	24,232,318	6,609,892	54,050,248	3,972,585	266,962	434,368	1,946,813	100	149.74	
6	80,819,106	19,861,890	5,414,115	49,133,760	3,790,083	196,170	487,168	1,935,920	88	131.70	
7	87,303,279	24,694,582	5,567,435	50,503,172	4,021,168	239,354	521,079	1,756,489	95	104.77	
8	103,258,122	27,070,479	7,245,188	61,141,542	4,975,686	358,470	644,123	1,822,634	113	165.76	
9	110,989,861	30,448,347	3,933,482	67,281,976	6,212,061	453,933	648,001	2,012,061	121	179.41	
10	119,954,542	32,900,927	5,699,693	69,234,037	8,353,834	557,895	628,115	2,080,041	131	194.93	
11	126,022,767	34,600,166	5,293,343	74,341,290	8,351,545	546,874	689,939	2,199,610	138	202.18	
12	141,558,756	38,830,149	5,041,074	83,348,595	10,331,480	776,885	776,450	2,454,123	155	226.41	
13	153,524,320	41,228,007	4,347,219	86,889,900	15,841,467	1,159,429	742,158	3,816,140	168	250.80	
14	186,270,267	50,704,622	8,104,502	93,123,998	27,360,421	1,129,918	1,103,638	4,743,168	204	304.08	

	總 數	農 産	蠶 業 絲 産	工 産	林 産	鑛 産	水 産	畜 産	同 上 指 數	現 住 一 人 當
郡 市 別										
(縣總額ニ對スル歩合總額 100 トシテ)										
									%	円
添上郡	8,706,112	5,870,674	221,447	1,316,433	607,320	68,379	97,621	524,238	47	219.88
生駒郡	23,238,809	7,322,057	120,779	13,690,914	134,018	277,228	591,905	1,101,908	125	277.69
山邊郡	9,554,355	4,697,231	734,592	2,857,867	951,350	15,833	45,073	252,409	51	228.98
磯城郡	22,657,198	7,410,349	1,967,202	12,036,880	557,381	48,730	14,162	622,591	122	288.35
宇陀郡	8,865,994	3,148,942	992,710	2,177,070	1,886,181	198,910	13,957	448,224	47	236.32
高市郡	13,919,775	4,413,829	345,074	8,521,353	436,731	15,811	19,172	167,805	75	298.53
北葛城郡	31,387,572	7,192,262	248,115	23,056,312	81,183	17,605	155,776	636,319	168	407.74
南葛城郡	7,980,070	3,338,913	198,811	4,020,999	230,218	4,841	11,266	175,522	43	248.48
宇智郡	6,287,259	2,104,058	679,548	2,813,268	300,389	98,298	28,644	263,054	34	246.68
吉野郡	38,967,627	4,068,852	2,596,224	9,329,695	22,161,148	384,783	85,407	341,518	209	393.49
奈良市	14,705,496	1,137,555	—	13,303,207	14,502	—	40,655	209,577	79	271.38

農 業

耕地面積 昭和十四年末に於ける耕地面積は44,222町9段 内田32,753町9段(7割4分1厘)畑11,469町0段(2割5分9厘)で耕地は總面積の1割2分に該つてゐる。

最近五ヶ年間の趨勢を觀ると次の通である。

	年 末	總 數	田	畑
昭和	10	44,768.3 ^町	33,193.9 ^町	11,574.4 ^町
〃	11	44,765.3	33,122.2	11,643.1
〃	12	44,654.5	33,066.7	11,587.8
〃	13	44,305.3	32,825.5	11,479.8
〃	14	44,222.9	32,753.0	11,469.0

同年中の耕地面積の移動は擴張184町2段 内田68町9段(3割7分4厘)畑115町3段(6割2分6厘)その潰廢は266町9段内田137町9段(5割1分6厘)畑129町0段(4割8分4厘)でその他の地目變換等による移動を加へ、前年末に比し82町4段を減少してゐる。

農家戸數 昭和十四年末に於ける農家戸數は60,623戸にて總戸數の4割9分3厘に當り前年に比して578戸を減少してゐる。

農業を専業とせるものは36,917戸(6割0分9厘)兼業とせるものは23,706戸(3割9分1厘)で、更に之を自作、小作別に觀ると自作21,348戸(3割5分2厘)小作15,972戸(2割6分3厘)自作兼小作23,303戸(3割8分5厘)となつてゐる。

最近五ヶ年間の趨勢を觀ると次の通である。

		總 數	專 業	兼 業	自 作	小 作	自 作 兼 小 作
昭和	年 末 10	64,049	42,041	22,008	22,456	17,716	23,877
〃	11	62,490	41,427	21,063	21,981	17,099	23,410
〃	12	62,484	41,364	21,120	22,203	16,642	23,639
〃	13	61,201	36,992	24,209	21,699	16,267	23,235
〃	14	60,623	36,917	23,706	21,348	15,972	23,303

耕地所有農家戸數 昭和十四年末に於ける耕地所有農家戸數は54,666戸で前年に比し121戸(1割)を増してゐる、耕地五段歩未満の所有者は總數の5割4分4厘を占め、五段以上一町歩未満は2割7分9厘で一町歩以上は1割7分7厘に過ぎない。

最近五ヶ年間に於ける趨勢を觀ると次の通である。

		總 數	五 未 段 滿	五 以 段 上	一 以 町 上	三 以 町 上	五 以 町 上	十 以 町 上	五 以 十 町 上
昭和	年 末 10	55,988	31,546	15,155	7,787	1,091	313	95	1
〃	11	56,171	31,742	14,968	7,981	1,058	326	94	2
〃	12	56,009	31,603	15,068	7,800	1,089	343	104	2
〃	13	54,545	29,945	15,066	8,006	1,079	345	102	2
〃	14	54,666	29,735	15,242	8,212	1,057	323	94	3

商 業 及 金 融

會 社 本縣内に本社又は本店を有する昭和十四年末の會社は384その拂込資金及出資額は總額45,486千圓である。

會社の組織より觀ると株式會社163、合資會社131、合名會社90で拂込資本金又は出資額は株式39,524千圓、合資3,633千圓、合名2,329千圓でその平均は株式242千圓、合資28千圓、合名26千圓である。

總會社を業態別に區別すると商業の135最も多く總數の3割5分2厘を占め、工業の128、運輸業の48、雑業55、農業の18、となつてゐる。

銀 行 昭和十四年末に於て本縣内に本店を有つ銀行は2行その支店及出張所は53にして拂込資本金は10,250,000圓、準備金は5,446,700圓にして前年に比して前者は174,475圓、後者は240,000圓を増加してゐる、昭和十四年中の入金は2,704,849,976圓、出金は2,703,988,040圓で、利益金は1,243,827圓、配當金は600,000圓である、昭和十四年末の預金現在高は84,028,087圓にして前年末に比し17,938,896圓(2割7分1厘)を増してゐる。

郵便貯金及郵便爲替 昭和十四年度末に於ける郵便貯金預入人員は641,276人、その金額は61,089,706圓で前年より58,339人、10,229,368圓多く、預入人員一人當金額は95圓26錢にして前年度末に比し一人當8圓01錢を増してゐる。

昭和十四年度中に於ける内國郵便爲替振出は口數278,329口、その金額8,181,339圓、平均一口29圓39錢にして前年に比し22,188口1,689,530圓を増してゐる、拂渡は口數408,416口その金額10,940,103圓、平均一口26圓79錢で口數に於て27,277口、金額に於て1,671,099圓を増してゐる、外國郵便爲替は振出172口9,809圓、拂渡16,219口738,763圓で前年度に比し振出19口を増し664圓を減し、拂渡に於て4,141口305,695圓の夫々増加を示してゐる。

交 通 及 災 害

道 路 昭和十四年末に於ける道路總延長は15,399軒200、内國道54軒386、縣道1,171軒366、市道226軒187、町村道13,947軒361で前年末に比し173軒514を減じてゐる。

鐵道軌道 昭和十四年末鐵道軌道延長は267軒7で内國有94軒6、私有173軒1、停車及停留場137、内國有26、私有111である、同年中に於ける(以下官設鐵道は含まず)乗車人員は34,977,263人(一日平均95,828人)降車人員35,154,153人(一日平均96,313人)で貨物營業收入の内旅客収入は4,598,868圓、貨物及手小荷物其他収入は316,814圓である。

通 信 昭和十四年度末に於ける郵便局は集配局69、無集配局68、總數137で前年より6局を増してゐる、同年度中の郵便物は通常郵便の引受42,415,910、配達46,893,205で人口に對する割合は一人につき引受69通、配達77通に該つてゐる、小包郵便は引受794,695、配達685,174で人口一人につき一個の小包を收發してゐる譯である。

電信取扱局は129で發信391,907、受信434,089となり前年に比し局數9を増し、發信47,946、受信56,316を夫々増加してゐる。

電話取扱所は總數130、内交換局93、通話局37にして電話加入者は8,620人となり前年に比し局數6、加入者149人を増加し人口千に對する加入者の割合は14人となつてゐる。

水災及暴風雨被害 昭和十四年の水災及暴風雨被害損失見積價額は372,139圓である、特に被害の多かつたのは大和川流域に於ける被害損失見積價額の130,884圓にして總見積價額の3割5分2厘を占め、淀川流域は65,660圓で總見積價額前年に比し2,574,799,7圓(9割5分2厘)減少してゐる。

社 會

慈惠賑恤資金 昭和十四年度末の慈惠賑恤資金歳入出内歳入18,548圓、歳出16,916圓にして其の主なるものは教護院費、補助費等で二者合せて15,960圓、總支出の9割4分3厘を占めてゐる。

社會事業 昭和十四年末に於ける社會事業團體は38、職員は182人にして收容人員延9,000人以上なり。

農繁託兒所 昭和十四年末に於ける農繁託兒所は261託兒9,210人、經費7,560圓で逐年増加の傾向がある。

日本赤十字社及愛國婦人會 昭和十四年末に於ける赤十字社員は34,392人で中佩有功章50人、特別855人、終身正18,347人、正社員15,140人で、愛國婦人會員は37,816人中佩有功章1,184人、特別維持8人、特別1,671人、通常34,953人となつてゐる。

健 康 保 險

工場及被保險者 昭和十四年度末に於ける健康保險法適用工場及事業場数は1,088で前年度に比し44(4分2厘)を増加してゐる。

被保險者は總數13,191人中男7,987人、女5,204人で前年度に比べて870人(7分1厘)を増してゐる。

教 育

學齡兒童 昭和十三年三月一日現在に於ける學齡兒童總數は115,829人で男は58,672人、女は57,157人中就學始期既達者は101,309人(男51,314人、女49,995人)就學始期未達者は14,520人、(男7,358人、女7,162人)で前年度に比べ前者は33人を、後者は478人を、總數に於て520人を共に減じてゐる、學齡兒童の中尋常小學校の在學者及卒業者は100,959人で、不就學兒童は350人ありその中就學猶豫は255人、就學免除は95人となつてゐる、就學始期既達者100人中の就學歩合は99.65人にして前年度に比し0.02人を減じてゐる。

小 學 校 昭和十三年三月一日現在に於ける小學校は322校ありその内譯は尋常小學校121、尋常高等小學校198、高等小學校3で前年度と同じである。

學級は尋常340、尋常高等2,018、高等11、合計2,369で前年度に比し40學級を増してゐる、教員は總數2,632人内男1,751人、女881人で前年度より41人多い、教員を資格別に觀ると小學校本科正教員2,051人(7割7分9厘)、尋常小學校本科正教員177人(6分7厘)専科正教員112人(4分3厘)、准教員6人(2厘)、代用教員286人(1割9分)となつてゐる。

兒童は102,380人、内尋常科86,001人、高等科16,379人で前年度より尋常科、高等科

共に多く、合計に於て492人(4厘)を増してゐる。

入學者は23,324人内尋常科14,524人、高等科8,790人で前年度より108人(5厘)少く、卒業者は尋常科13,635人、高等科7,537人、合計21,172人で前年度より629人(3分1厘)を増してゐる。

師範學校 縣立二校ありその學級19、教員は兼務者を除き42人で内有資格者39人、無資格者3人となつてゐる、生徒は408人、入學者150人、卒業者147人で何れも前年と大差なく入學歩合は志願者百に付き35人となつてゐる。

青年學校教員養成所 縣立農事試驗場に併置し學級1、教員10人、内専務者2人、兼務者8人で生徒は18人あり、隔年に20人内外の卒業者を出してゐる。

中學校 縣立5校、私立3校あり學級は合計111で教員の總數は他よりの兼務者を除き194人、一校當の教員は24.3人となつてゐる、教員の内有資格者は173人で總數の8割9分を占め、生徒は總數5,042人で前年より263人を増して一校當630人、教員一人當26人となつてゐる卒業者は783人で前年度より29人多い、入學者は1,204人で入學者願書に對する割合は百人につき67.0人である。

高等女學校 縣立6校、町立1校、私立2校、合計9校あり、學級は109、教員は本務者189人で内有資格者176人(9割3分1厘)となつてゐる、生徒の總數は4,960人で、逐年増加し前年度より261人(5分5厘)多く、卒業者は935人、入學者(第一學年)は1,165人となつてゐる入學志願者百人に對する入學者の割合は77人である。

實業學校 (甲) 校數は14でその内譯は農業3、工業2、商業2、職業學校7となつてゐる、學級は合計85、内農業20、工業15、商業17、職業33で前年度より8學級を増し、教員153人、内農業38人、工業32人、商業30人、職業53人で前年度と大差なく生徒は總數3,526人で内農業886人、工業567人、商業760人、職業1,313人前年度より163人を増してゐる、入學者は985人でその内譯は農業215人、工業116人、商業220人、職業451人となり第一學年の志願者百人につき入學者の割合は農業64人、工業44人、商業57人、職業96人となつてゐる。

卒業者874人内農業151人、工業107人、商業116人、職業500人で前年度に比べて13人を増してゐる。

實業學校 (乙) 農業2、職業2、合計4校あり、學級は13、内農業6、職業7にして前年度と移動なく兼務者を除く教員は16人、内農業9人、職業7人である、生徒505人、内農業268人、職業237人で前年度に比し22人を減じてゐる。

入學者は224人、内農業88人、職業111人で本科の入學志願者百人に對する入學者は農業78人、職業94人で卒業者は171人、内農業87人、職業84人となつてゐる。

青年學校 校數235、内私立2校にしてその學級は544で教員は本務者207人、兼務者1,149人となつてゐる、指導員は721人で生徒の總數は14,660人、内男11,284人、女3,376人で一校當の生徒數は62.4人で入學者は8,343人、卒業者2,957人であるが年度内の退學者2,893人を算してゐるのは遺憾である。

盲啞學校 1校あり11學級で教員14人、生徒は102人で内學齡兒童は61人の過半數を占めてゐる入學者は32人、卒業者は10人で前年度に比べて教員に於て3人、生徒に於て8人を増して

る。

各種學校 23校あり學級114で教員は本務者138人、兼務者155人となつてゐる、縣内に本部を有つ天理教の敎校が甚だ大きい爲生徒數も極めて多く3,716人となり、入學者及卒業者も前者6,572人、後者5,700人の多數に上り昭和十二年度の經費總額も収入302,750圓、支出442,364圓に達してゐる。

幼稚園 園數は17で逐年その數を増し組數58、保母68人、幼兒1,779人、入園兒1,639人、保育滿期者1,337人で前年度より組數4、幼兒151人、入園兒150人、保育滿期者97人を各増してゐる。

圖書館 圖書館令に依る圖書館は館數86で藏書冊數は310,580冊、開館延日數22,675日で閱覽人員は302,481人となり前年度に比べて圖書冊數6,042冊、閱覽人員12,399人を増してゐる、一館當り一日の閱覽人員は92人餘りとなつてゐる。

青年團 青年團は男女合せてその數296で内男149、女147で正團員の總數は37,821人、内男22,869人、女14,952人で支出經費は50,140圓となつてゐる、前年度に比し團數に於て統一せし爲2を減じ、團員は300人を減じてゐる、一青年團當りの經費は169圓餘となつてゐる。

公學費 昭和十二年度の公學費歳入總額は1,785,131圓、内縣費586,255圓、市費43,860圓町村費1,155,016圓で前年度より27,438圓(1分5厘)を増してゐる、歳出總額は4,830,367圓、内縣費1,542,824圓、市費174,218圓、町村費3,113,325圓で前年度より353,048圓(7分3厘)を減じてゐる。

公學資産 昭和十二年度末に於ける公學資産の總見積價額は15,637,289圓で内縣に屬するものは4,260,535圓、市1,608,137圓、町村9,768,617圓で前年度より1,477,358圓(1割4厘)多くなつてゐる、建物の價額は9,743,233圓で總價額の6割2分3厘を占め土地價額は敷地附屬地を合せて3,366,691圓(2割1分5厘)圖書機械、標本器具價額は合せて2,527,365圓(1割6分2厘)となつてゐる。

社 寺

神 社 昭和十四年末の神社は1,520でその内譯は官幣社10、縣社26、郷社27、村社1,061、無格社395、招魂社1となつてゐる、この中神饌幣帛料供進指定神社は418となつてゐる。

神 職 昭和十四年末に於ける神職は總數320人内官幣社61人、縣社43人、郷社42人、村社171人、無格社3人で前年末に比べて19人少く、神社一につき神職の數は官幣社6.1人、縣社1.7人、郷社1.6人、村社0.2人となつてゐる。

寺 院 昭和十四年末の寺院は1,801で眞宗の630ヶ寺が最も多く、淨土宗の346ヶ寺、眞言宗の341ヶ寺之に亞ぎ、其の他の各宗の寺院は合せて484ヶ寺に過ぎない。

住 職 寺院に仕ふる住職は昭和十四年末に於て總數1,347人で眞宗の557人は最も多く、淨土宗の256人、眞言宗の203人、融通大念佛宗の144人等はその主なるもので、その他は合せ

て187人に過ぎない、一寺院に對する住職の割合は0.7人に該る。

警 察

警察職員 警察部及縣下18警察署の職員總數は554人で内533人は警察官にして職員總數の9割6分2厘に該つてゐる。

定員巡查1人に對する人口は1,070人で更に之を警察署に屬する警部補巡查の總數517人に對比すれば1,185人に該つてゐる。

交通事故 昭和十四年に於ける自動車、自動自轉車、自轉車、電車、汽車、人力車、荷車等に依る交通事故の件數は106件なり其の最も多きは自動車の54件で總數の5割0分9厘を占め、電車の30件、汽車の7件等順次に並び、死者數は40人、傷者數は145人で歩行者の被害最も多く60件で死傷合せて66人に及んでゐる。

火災及消防 昭和十四年に於ける家屋火災の度數は113件で失火は84件に及び總數の7割4分3厘を占め、之を住家非住家別に觀ると住家の内全燒棟數は57、半燒棟數は22で其の燒失建坪は1,805坪となり、非住家は全燒棟數は52、半燒棟數は8で其の燒失延坪は562坪となつてゐる。

火災に依る損害見積總額は348,110圓にして前年より181,425圓多く火災度數1回に付3,081圓の割合である。

山林、原野の火災度數は47件あり前年より17件多く、燒失坪數は492,318坪で損失見積額は517,144圓となつてゐる。

警防團は昭和十四年末に於て消防組152あり、その組員の總數は31,498人で一年間の經費は141,542圓となつてゐる、ガソリン唧筒は自動車20で其の他のものは265あり腕用唧筒は次第に減少して337となつてゐる。

變 死 昭和十四年中の變死者の總數は235人で前年より33人少く、之を種類別に觀ると自殺127人、災害其他108人にして自殺總數の4割6分0厘に該る、自殺者の127人を因由別に觀ると其の主なるものは病苦に依る51人(4割0分2厘)厭世に依り24人(8分9厘)其の主なるものである。

自殺者を年齢別に觀れば50歳以上が48人にして其の首位を占め、20歳以上30歳未滿の32人、30歳以上40歳未滿の20人、40歳以上50歳未滿の15人等は最も多い。

精神病者 昭和十四年末に於ける精神病者は1,319人で前年より比し24人多く總數の中1,059人(8割0分3厘)は收容又は監置を要せない者である。

貸 座 敷 昭和十四年末の貸座敷數は74、娼妓は632人でその一戸當9人となつてゐる、同年中の遊興人員は497,080人、その消費金額は1,429,952圓で前年に比べて前者4,886人(1分)少く、後者に於ては318,400圓(2割8分6厘)を増加してゐる。

犯 罪 昭和十四年中に於ける犯罪の發生件數は6,851件にして前年に比し145件(2分1厘)を減少してゐる、犯罪中最も多いものは諸法令違反は3,659件、強竊盜の罪1,143件で、業務上横領の罪694件、詐欺及恐喝の罪617件等はその發生の多いもので之等を合して8割9分

2厘に該り、他の犯罪は併せて1割0分8厘に過ぎない。

縣外發生事件を含む檢舉件数は7,619件で前年より70件(9厘)を減少してゐる。

衛 生

醫 師 昭和十四年末の醫師總數は359人、その免許資格別を觀ると官公私立専門學校卒業212人(5割9分0厘)大學卒業100人(2割7分9厘)試験及第45人(1割2分5厘)從來開業1人(3厘)限地開業1人(3厘)となつてゐる。

醫師一人に對する人口の割合は1,706人である。

齒科醫師 昭和十四年末の齒科醫師總數は166人で前年と同じにして、之を資格別に觀れば指定學校の卒業者は97人で總數の5割8分4厘に該り、試験及第は69人(4割1分6厘)となつてゐる。

藥劑師 昭和十四年末現在の藥劑師總數は268人で前年より3人を増したのみである、官公私立指定藥學専門學校卒業196人にして總數の7割2分8厘に當り、試験及第者は69人となつてゐる。

産 婆 昭和十四年末の産婆は702人にして前年末より8人多い。

傳 染 病 昭和十四年中の法定傳染病患者は腸チブス513人、赤痢285人、デフテリヤ157人、猩紅熱53人、流行性腦脊髄膜炎36人、パラチブス9人、合計1,053人に及び前年に比して278人(3割5分9厘)を増加してゐる、以上の中死亡率の最も高いものは流行性腦脊髄膜炎の4割4分5厘、デフテリヤの1割8分5厘、赤痢及パラチブスの1割8分2厘、腸チブス1割7分5厘、猩紅熱5分7厘の順となつてゐる。

財 政

國 費 昭和十四年度に於ける國庫經費の本縣支出額は3,088,860圓(特別會計を除く)で前年に比し838,491圓(3割7分3厘)の減少となつてゐる。

縣 費 昭和十四年度に於ける縣歳入額は9,960,581圓で内經常部は3,604,067圓、臨時部は6,356,514圓となり前年度に比べて792,159圓(1割1分)を増してゐる、稅收入は2,794,905圓で歳入總額の3割5分5厘に該り、その主なるものは國庫補助金の2,864,755圓(1割8分8厘)縣債の1,938,500圓(1割6分)國庫補助金679,692圓(6分8厘)使用料及手数料の648,456圓(6分6厘)等である。

歳出は總額9,011,379圓、内經常費2,997,621圓、臨時部6,013,758圓で前年度より144,600圓(1割1分7厘)多く、その主なるものは土木費1,107,308圓(1割9分1厘)、教育費862,914圓(1割2分3厘)等である。

市町村費 昭和十三年度に於ける市町村費歳入額は9,511,918圓にして前年度より81,242圓(1分4厘)多く、歳入の内稅收入は3,752,913圓で總額の3割9分7厘を占め、繰越金1,044,3

91圓（1割5分3厘）國庫下渡金972,731圓（1割1分1厘）臨時町村財政補給金862,503圓（9分2厘）雑収入627,945圓（6分7厘）寄附金530,854圓（5分6厘）町村債297,107圓（3分2厘）等はその主なるものである。

歳出は總額8,522,415圓で前年度より90,864圓（1分1厘）少く、歳出の主なるものは教育費3,200,971圓（3割8分0厘）が筆頭で役所役場費は1,344,346圓（1割5分7厘）土木費533,477圓（6分3厘）等はその主なるものである。

諸税負擔 昭和十三年度に於ける縣民負擔の租税は總額9,320,828圓で前年度より489,293圓（5割5分4厘）を増してゐる、租税の内譯は直接國税2,991,004圓、縣税2,594,905圓、市町村税3,734,919圓で之を現住戸口に對比すると一戸當りは國税24圓33錢、縣税21圓11錢、市町村税30圓38錢、合計75圓82錢で人口一人當は總額15圓25錢となり一人當にして前年度より1圓92錢を減じてゐる。

選挙及官公吏

選挙 每七年改選の貴族院議員多額納税者議員の昭和十四年九月第八回選挙に於ける議員定数は1人 互選資格者は100人である、互選権を有する者の直接國税の總納額は278,374圓で前年より170,069圓多く、一人當納税額の最高は47,696圓、最低は1,023圓である。

昭和十四年十二月二十日現在の衆議院議員は5人で選挙有権者は134,052人である、人口千につき選挙有権者は21.88人で議員一人に對する有権者は26,810人である。

昭和十四年十二月二十五日の縣會議員は30人にして、その選挙有権者總数は127,104人で前年より有権者4,212人を減じ、議員一人につき有権者は4,239人、人口は20,419人に該つてゐる。

昭和十四年末現在の市町村會議員は2,151人で、その内譯は市會議員36人、町會議員484人、村會議員1,631人となつてゐる、選挙有権者は市會10,689人、町會37,304人、村會82,244人、合計130,237人で一市町村當議員は14.25人、その有権者は862人となつてゐる

官公吏 昭和十四年末に於ける縣職員の總数は999人、(警察官、學校職員並神職を除く)その俸給年額は1,337,373圓で内譯は勅任1人、奏任22人、奏任待遇73人(内休職1人を含む)判任205人、判任待遇371人(内休職1人を含む)縣吏員85人、雇員237人となつてゐる、一人當の俸給年額は111圓56錢に該る。

昭和十四年末現在の市町村制に依る市町村吏員の總数は4,592人で報酬俸給年額613,054圓で内名譽職は3,531人である、有給吏員一人當の俸給年額は577圓81錢に該る。